

# さんむのふるさと散歩

No.7

## 日本最後の城と

### いわれる松尾城

松尾地区の桔梗台には、現在松尾中学校があります。この中学校が建てられる前には、松尾城と呼ばれる明治時代初期に築かれた城郭がありました。

時は明治元年、江戸城および関東の天領を新政府に明け渡した徳川家は、駿河・遠江の七十万石を新たに領地として与えられ、これによって駿河・遠江を所領していた諸藩は、上総・安房に国替えを迫られることとなり、旧掛川藩太田資美（静岡県掛川市）が上総の武射郡へ移封されたものです。

当初は、芝山観音経寺を仮の藩庁としたため柴山藩と称していましたが、新たに居城を建設するために選定した場所として、旧松尾町の大堤・八田・猿尾・田越の4か村地域に城郭を築城することになり、併せて藩庁、城下町を建



松尾地区桔梗台をのぞむ（現 松尾中学校）

設することとなりました。新たに築く城は、幕末期に見られるようになった稜堡式の工法を取り入れ、城名を掛川城の本丸の南側内堀にあった松尾池、その南側の松尾郭にちなんで“松尾城”と名付けられました。

やがて明治3年に藩庁の周辺および藩主の居住、城下町

が一応完成し、藩庁を柴山藩から松尾藩に改称されました。しかし、時代は廃藩置県へと動き、翌年の明治4年には松尾藩が周辺の諸藩とともに松尾県と改組され、同年11月には木更津県に吸収、城としての完成を見ずに短い松尾城の歴史は閉じました。

### 松尾城を作った人物

松尾城の設計・土木工事を担当した人物は、掛川城太田藩普請奉行犬塚一郎治が、算学者と共に行いました。城の形態は稜堡式を採用し、三稜城の形態で築城に取りかかりました。

なぜこのような形の城郭を採用したのでしょうか。幕末から明治初頭は時代の流れのなか、大砲の採用にあります。大砲の砲弾が当たっても崩さ



要であったでしょう。例えば、函館の五稜郭などはその代表的なものです。

松尾城は、三稜城を採用し南側が急壁であるので、自然地形を巧みに利用したものでありました。

また、松尾城の中核をなす施設、公庁（当時の行政事務施設）は、松尾自動車教習所がある場所です。教習所入口の左手側には土手（墨壁）が今でも現存しており、その墨壁の南側には火薬庫などが確認されています。

### ヒント

松尾城に採用された稜堡式築城についてお話ししましょう。

松尾城が採用された形式は、ヨーロッパ地方で16世紀から18世紀に盛んに採用された要塞で、城郭の周りに突出した施設を設け、日本の中世城郭の一施設、物見櫓の機能を持ち併せ、砲弾など銃火器に対応した構造のもので、この施設は突出しているため、視界が良く攻防戦に有効的で、死角が少ないことに利点があります。築城に際しては、蘭学者や数学者の知識を駆使して採用したことがうかがえます。